

第26回今日の作家展'90〈トリアス〉

The 26rd 'Artists Today'
Exhibition
〈tplas〉

'90年11月10日[土]—25日[日]

午前10時—午後6時休館日11月12日[月]

11月10日(土)午後5時からシンポジウム。午後6時30分より

オープニング・パーティーを市民ギャラリーB1アトリエにて行います。ふるってご参加下さい。

主催——横浜市・横浜市教育委員会(横浜市民ギャラリー)

会場——横浜市民ギャラリー(3階展示室)

横浜市中区万代町11(教育文化センター内)

JR関内駅南口1分 Tel.045(671)3721

入場料——無料

tplas

横浜市民ギャラリーが毎年開催する「今日の作家展」は、今回で26回目。

1/4世紀余りにわたり、現代美術の位相を同時代的に紹介、

さまざまな問題を提起し続けてきた積極性が、広く全国的にいられているものです。

90年代の幕開けともなる今回は、国立、県立、区立の各美術館において公務につきつつ、

現代美術の現場にも随走する3人の学芸員による企画。

それぞれのテーマにそって3作家を選出、〈3×3〉の総勢9名によって繰り広げられる

トライアングルなセッション、名付けて〈トリアス〉。

ポストモダンといわれる今日の美術状況に浮かび上がる形式の拡散と収斂に、現代美術の蘇生の方途を探る。

1

復元力の
所在

企画委員—水沢勉

(神奈川県立近代美術館)

出品作家—吉田克朗
寺内曜子
長澤伸穂

物流に身を移ろわせる僕達の日常。
そこによこたわる美術の確固とした地平を物流に
押し流される事なく見定めることの困難。
単純な作業の積層に込められる感覚の
多層性が、物流の時間を
堰き止める可能性を見る。

3

拡“大”
する版

企画委員—正木基

(目黒区美術館)

出品作家—原有徳
秋岡美帆
山口啓介

版画の拡“大”はいかになされつつあるか。
80年代、版画はその版概念を問い直され続けてきた。
とりわけ拡大という字義には、作品の大型化という「大」(＝タブロー化)も
加わるが、そこにはいかなる必然が問われているのか。
版であるままの版の逸脱と自律性を問う。

2

不在の
空間

企画委員—近藤幸夫

(東京国立近代美術館)

出品作家—白井美穂

柳健司
笠原恵実子

永遠に主役を待ち続ける舞台。
あるいは主役の登場を拒絶した自己充足的な不在の舞台。
80年代の日本の現代美術において特異な展開をみせた
インスタレーションという表現形式は、いま新たな方向性を示そうとしている。
彼らが“不在”によって明らかにしようとしている“存在”とは何かを考える。

tplas